



## 日本小児歯科学会 地方会が誕生した経緯に就いて

鹿児島大学名誉教授 小 棟 正

日本小児歯科学会の学術学会は、昭和57年度（第20回大会）の春季学会まで年に二度行われていた。すなわち、春季日本小児歯科学会大会及び総会と秋季日本小児歯科学会大会の二回であった。しかし、昭和55、56年頃に全国大会を年間二回行う事をやや負担に感じていた人々も居たことも確かであろう。丁度その頃小児歯科学会長（昭和55年、56年）であった檜垣旺夫教授から暁星歯学会（何時、何処での会であるかよく記憶していない）の席で、日本小児歯科学会の地方会への構想の是非を持ち掛けられたのが始まりであったと記憶している。地方会の話とはあまり関係ないのだが、暁星歯学会とは何かを説明しておかないと、かえって分かり難いので簡単に説明することにした。

暁星歯学会とは暁星学園（東京の九段にあるフランス系のカソリックの学校）を卒業した歯科医師の集まりである。昭和50年頃に日本大学歯学部には細菌学の教授で在られた池田 正先生を筆頭に補綴の渡邊真宏先生が居られ、小児歯科には私が矯正科には鎌田勝之君、鎌田君の同級生の金子紀孝君などのほか松江高光君、その一級下の青島 攻君など20名程度卒業生がいることが分かりました。初めは卒業生が集まって飲み会でもと言う軽い気持ちだったのですが、神奈川歯科大学の檜垣教授（東京医科歯科大学）の他、私の同級生だけでも中嶋慶一郎君（日大）、安部井寿彦君（東京歯科大）、後藤譲治君（東京歯科大）、保垣正彦君（日本歯科大）と居りますので、東京近郊の大学に呼び掛けて母校の検診などの仕事の分担の他、情報交換や勉強会などをやる会にすることにしました。この会の初代の会長さんを檜垣先生に御願いしたわけです。暁星歯学会が出来たばかりの為この会を軌道に乗せるため、しばしば打ち合わせ会を開いていたのです。

檜垣先生の話を要約すると、「年2回全国大会を実施するよりは各地域によって実情が違うのだからその地域に合った問題を討議したほうが良いのではないか」と言うことだったと記憶している。私は檜垣先生の意見に賛同しましたが、私の意見は少し違いがありました。それは、学会の大半の構成員である開業医の意見を反映させる場面が少ないので、地方会は開業医さんが中心になって、大学の先生方の研究発表の場にしないほうが良いと考えていたからである。細かいことはともかくとして昭和57年の小児歯科学会創立20周年記念を機に学術大会は年1回に決定しました。そして昭和57年12月11日（第101回理事会）の会議で地方会設立の合意が得られました。そこで第一回の九州地方会は昭和58年10月15日（土）に福岡歯科大学小児歯科学教室（吉田 穣教授）の主催で行い、初代の会長を吉田先生に御願いする事になりました。現在は九州地方会も20周年記念式典を昨年度（平成14年）終え、会長（熊本の瀬尾先生）さんの他多くの役員も開業医の先生方が頑張っているので、段々理想に近くなり今後ますます発展する事を期待しています。